

ご挨拶

このたび日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会 2021 年度東北地区オンライン床ずれセミナーを開催させていただき運びとなりました。

私は高齢化率日本一の秋田県で皮膚科医をしております。
大学病院勤務時代に褥瘡対策チームに携わったご縁から、開業後は高齢者施設や在宅の褥瘡患者さんの診療を行っております。

本セミナーでは、全国会長講演、理事長講演に加えまして日頃の診療で私が今後の課題だと考えている点を取り上げました。

皆様ご存じの通り、褥瘡の予防・治療には、その原因である「外力の除去」が大切です。
「寝たきりの患者さんの褥瘡予防・治療にはまず体圧分散マットレス」という概念は様々な職種の方に広く認識されており、仙骨部の重度の褥瘡患者さんは減少しているように思います。

しかし、一人暮らしの高齢者の座位で発症した尾骨部の褥瘡にまだまだ遭遇します。
座位時のクッションや車いすについての啓蒙が必要だと考え、株式会社みらい取締役の早瀬尚文先生に講演をお願い致しました。

また、老々介護、老親を独身の息子さんが介護するケースも少なくありません。

「栄養が大事なのは分かっているけれども調理は難しい」

「夜間に起きて体位変換やおむつの交換が大変だ」

などの在宅の困った！の助けになる便利な物品の情報を企業にお願いしています。

どんどん進化している介護用品の情報もアップデートしてください。

さて、特別講演のテーマを決めるにあたっては教訓症例にこそ学ぶべき点があると考えここ数年間在宅の褥瘡患者さんの治療でうまくいかなかったケースを振り返りました。
その共通点は治療の遅れでした。

「体圧分散マットレスへの変更を患者さんが拒否していてまだ使えていない」

「皮膚科医が往診にくるのを患者さんが拒否している」

などの理由から早期治療が行えずに重症化していました。

どんなに優れた医療機器、薬剤、医療チームがあっても患者さんに拒否されては何の効果も発揮することができません。

褥瘡の予防、早期発見、早期治療にもっとも大切なのは患者さんと信頼関係を結ぶことでは

ないでしょうか？

そのように考えた結果、特別講演を日本ユマニチュード学会の理事の本田美和子先生にお願い致しました。

本セミナーが褥瘡ケアに携わる皆様のお役にたてますよう、切にお祈り申し上げます。

*** 参加申し込みは下記 URL よりお願い致します。**

<https://ad-system.biz/tokozurecare/>

日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会
2021 年度東北地区床ずれセミナー
会長 岡田 裕子